

# 農

## 女性ふれあい グループ 連絡協議会



チーズ、米粉を使用したパンなどを試作中です。  
**地元食材の本当の良さを  
知っている私たちの  
役割**

北檜山区女性ふれあいグループ連絡協議会（照井昭子代表）は、女性の立場で生産者と消費者の視点に立ち、自ら生産した農畜産物等に付加価値を付けるための加工活動を通じて、農村の良さを消費者に発信するなど、農村の暮らしと地域を活かす活動を展開するため、平成12年に発足しました。

### 商品開発に取り組んでいます

現在6グループが商品開発に取り組んでおります。これまで、たくさんのお試作品の中から保健所の販売許可を取得したのは、味噌。その他、三升漬や

地元食材の本当の良さを知っている人は意外と少ない。「例えば、現在では造ることの少なくなつた味噌の加工技術を各家庭に再び普及させることによつて、健康的な食生活の一端を担うことができ

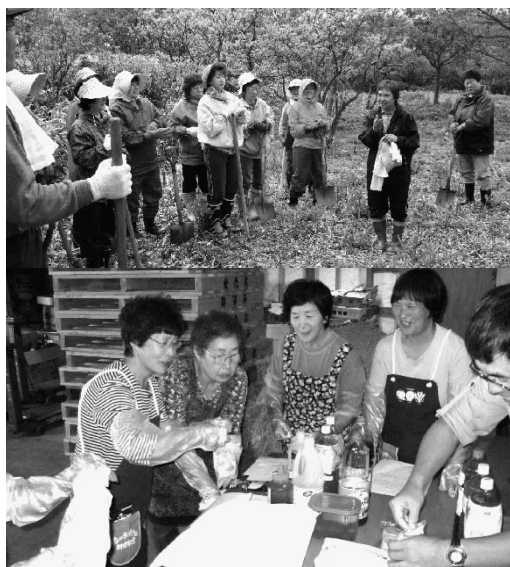
# せたな町での 地産地消の取り組み

ひやま漁業協同組合の女性部は、瀬棚、大成、貝取瀬にそれぞれあり、女性部瀬棚支部（能代恵子部長）の会員は、現在86名。夕市、ふれあい市場、イベントへの参加協力に取り組んでいます。

「地元の人でも、本当の地元のおいしさを知らない人が多い。まずは、地元の美味しさを知ってもらいたい。そのためには、北檜山区、瀬棚区、大成区それぞれの漁業、農業、商業、観光などが連携して町全体が一つになってできるイベントがほしい。」と能代部長は話します。

今年で11年目となる夕市は、すっかり地元に着し、なくてはならない地元の台所を預かる市場。始めは、加工品もなく捕れたそのままの水産物販売からスタートしましたが、年々、加工食品も増え、現在では、米や野菜などの農産物も直売するなど、充実した品揃えとなつていま

「地元の人も、本当の地元のおいしさを知らない人が多い。まずは、地元の美味しさを知ってもらいたい。そのためには、北檜山区、瀬棚区、大成区それぞれの漁業、農業、商業、観光などが連携して町全体が一つになってできるイベントがほしい。」と能代部長は話します。



## ひやま漁業協同組合 女性部 瀬棚支部

# 漁

## 瀬棚夕市

●開催日／毎月第4日曜日

●場所／ひやま漁協瀬棚支所市場



## ふれあい市場直売会

●開催日／毎月第1・3土曜日

●場所／ふれあい市場



## もぎたて市場

●開催日／毎日

●場所／Aコープきたひやま



## めんこい豆クラブ

●開催日／6月・9月

●場所／北檜山保育所付近



●町内各種イベントでの販売

●漁師の直売店・水産加工品販売店

●個人による野菜の「産直販売」

現在、北檜山幼稚園を除く3保育所（園）、11小学校、3中学校で給食を実施。給食センターでは、アレルギーや食糧構成、栄養価、食生活指針などを考慮しながら、できるだけ地元産の米、野菜などを使用しています。

# できるだけ 地元の食材を 取り入れた 給食を



せたな町更正保護女性会北檜山支部（江上久子会長）は、今年も北檜山区の学童保育所（青少年センター内）を訪れカレーづくり交流会を開きました。カレーの材料は、ジャガイモ、玉ねぎ、ニンジン、米などほとんど地元で採れたものを使用。児童と一緒にカレーづくりを通じて交流をしています。

# 今年も 学童保育所 でカレーづ くり交流会



**本当の「地産地消」**  
せたなの自然の恵みを食することで、食材から元気をもらえるかもしれません。生産者と直接話してみること、作物への愛情がわかるかもしれません。そして「地元の自然の恵みが」本当の「豊かな食」への近道であるということに改めて気づくかもしれません。  
さらに、食だけではなく、せたなで産まれた人やエネルギーなどを含めた全てが「地産」であり、これを地元で活用すること、これが本当の「地産地消」かもしれません。せたなで暮らす私たち一人ひとりが地産を見つめ直し元気になることが、せたな町に元気を与え、この町が本来持つ力を十分活かすことにつながるものと考えます。